

これからの時代に求められる教育 体育・保健体育が果たすべき役割

筑波大学体育系准教授 山口 香

体育・保健体育を考える上での前提

スポーツ基本法

「スポーツは世界共通の人類の文化である」

「スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことは、全ての人々の権利であり、全ての国民がその自発性の下に、各々の関心、適性等に応じて、安全かつ公正な環境の下で日常的にスポーツに親しみ、スポーツを楽しむ、又はスポーツを支える活動に参画することのできる機会が確保されなければならない。」

「生きる力」 （平成8年中教審答申）

国際化や情報化の進展など、変化が激しい時代にあって、いかに社会が変化しようと必要な能力。

「知・徳・体のバランスの取れた力」と定義。

子どもたちの誰もが安心・安全にスポーツを楽しむ環境を提供する、保証することは大人の責務である

大人は子どもたちに運動・スポーツをする環境を十分に提供しているのか？

学校体育の重要性は？

海外に行って思うこと・・・



公園には芝生があり、こどもは走り、大人は寝転がる
スポーツフィールドも充実している

芝の公園は転んでも擦りむいたり、怪我をする心配が少ない。
→安全で安心な空間で制限されない自由な遊びができる。

一方、日本は・・・

制限が多く、自由な活動ができる環境が少ない。
動かない、遊ばない、じっとしていることで安全を確保???

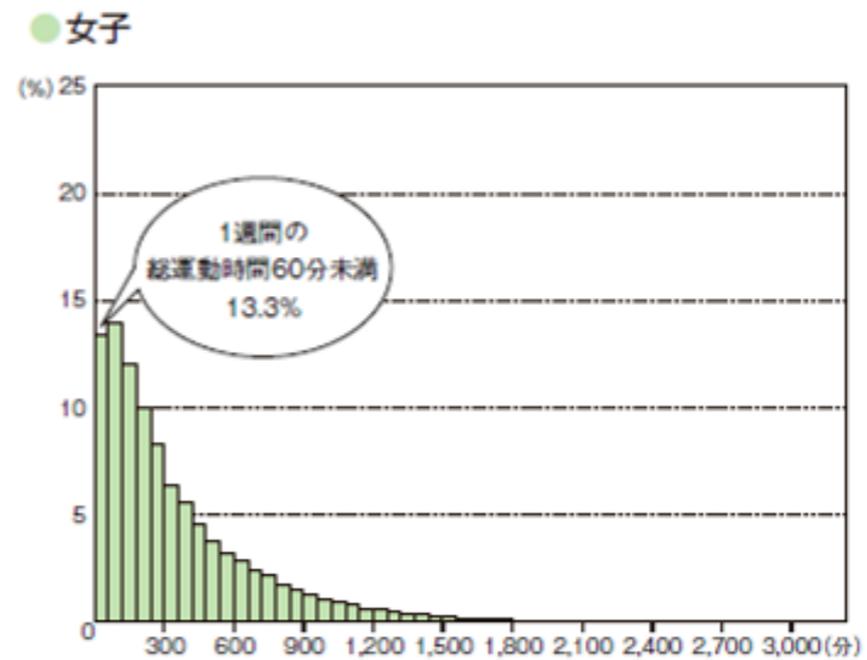
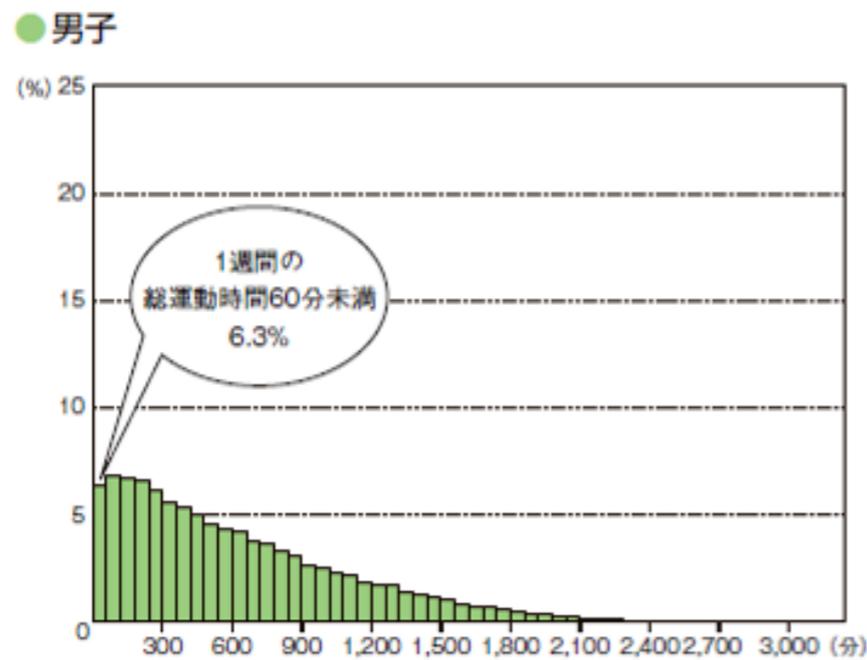


**日本は、残念ながら外遊びで身体活動を
担保できる環境ではない。**

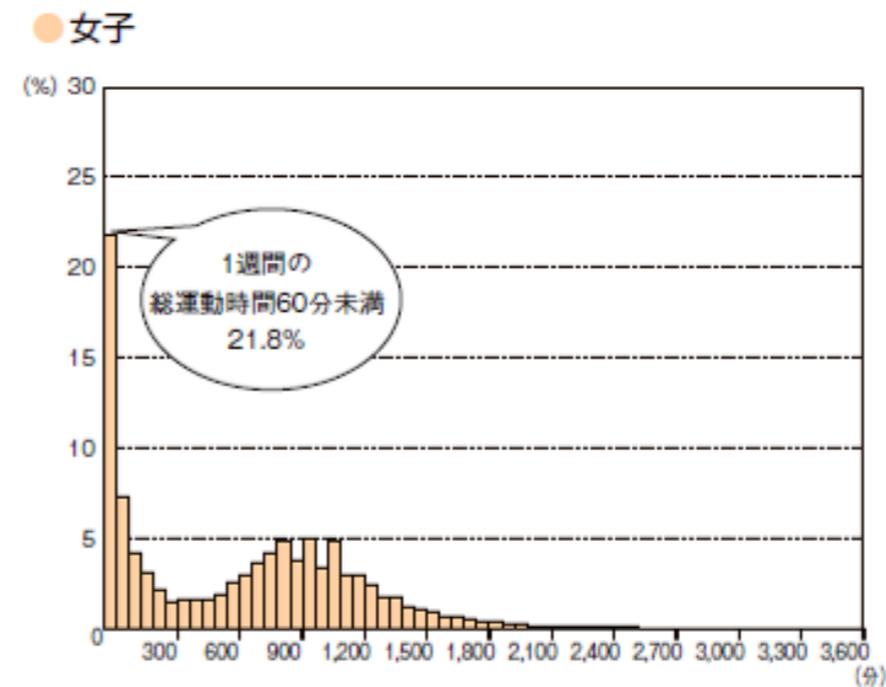
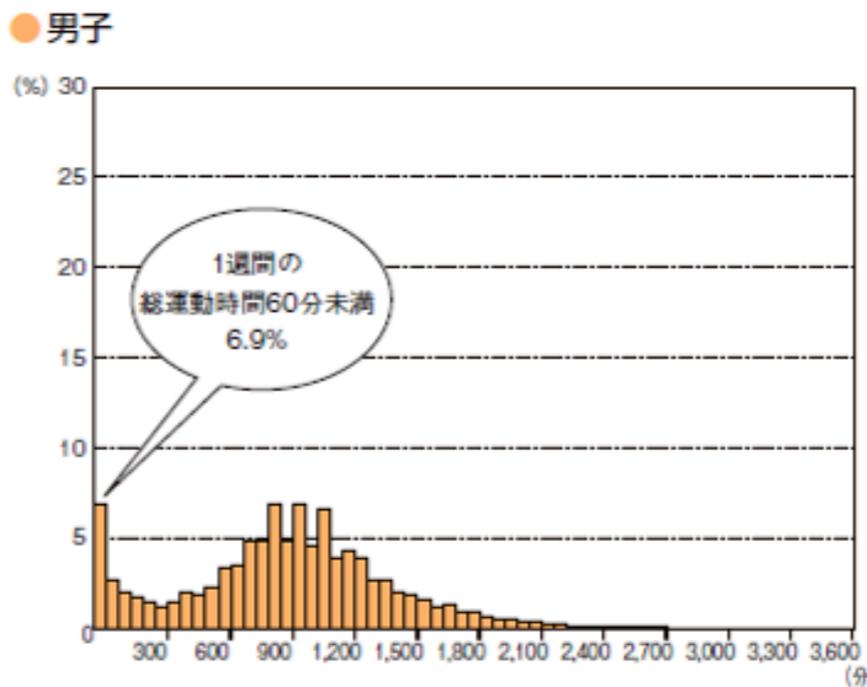
学校体育の役割が増大している！

一週間の総運動量の分布

小学生



中学生



中学校において運動をする生徒、しない生徒の二極化
女子は小学生で13.3%、中学生で21.8%が週60分未満の運動

スキヤモンの成長曲線（1930）からみた
プレ・ゴールデンエイジ・・小学校低学年
ゴールデンエイジ・・小学校高学年

神経系の発達は5歳ごろまでに約80%、12歳までに
ほぼ100%となる。12歳になる直前の数年間は
神経系の発達の著しく、様々な神経回路が形成。

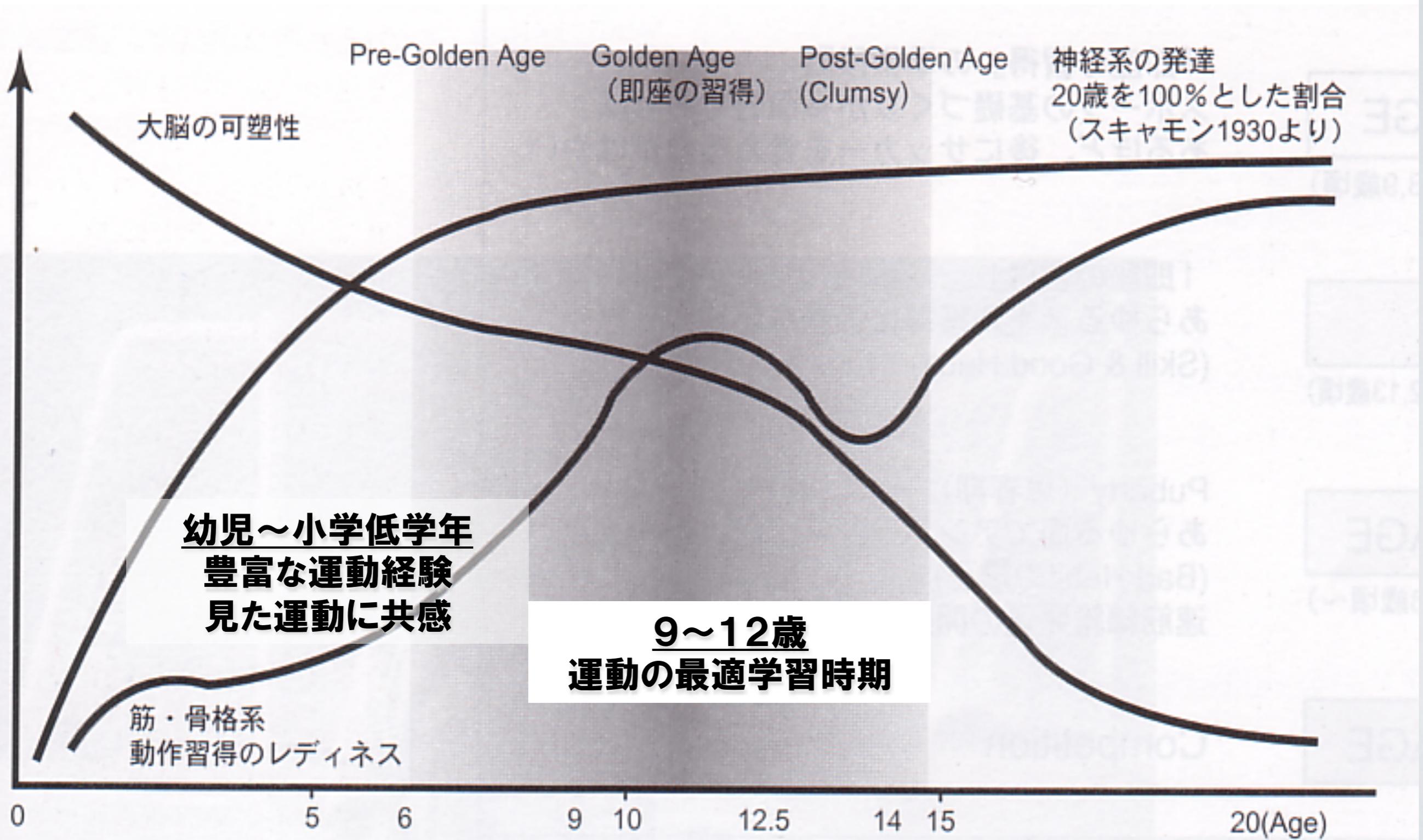
また、一度、経路が出来上がるとなかなか消えない
→自転車にいったん乗れるようになれば数年間乗ら
なくても、スムーズに乗ることが可能

この時期に神経回路に様々な刺激を与え、多様な動きを
経験させることは極めて重要。

**ゴールデンエイジで獲得した動きや運動能力を
中学校・高等学校でさらに伸ばし、生涯スポーツにつなげる**

■時期を得た専門化

「大切なことを身につけるためには、早くからスポーツに親しみ、“続けること”」



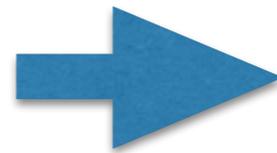
遊び・体育・スポーツから獲得が期待できるのは・・・

- ・ 自らの身体を理解し、生涯を通じて管理、維持できる知識・能力。
- ・ 他者に対する配慮 → 痛みを理解できる
- ・ 身体は最も身近にある自然。自然に対する敬意と科学技術の限界を知る
- ・ 課題の抽出（設定）、問題解決能力 → イノベーション
- ・ Try and Error の重要性 → 挑戦は人類の進化の歴史
- ・ ルールのなかで正しく競う → 規範意識（自己コントロール）
- ・ 違う個の集団のなかでも発揮できるチームワーク → コミュニケーション能力

2020東京オリンピック・パラリンピック教育の価値

オリンピズムの目標は、スポーツを人類の調和のとれた発達に役立てることにあり、その目的は、人間の尊厳保持に重きを置く、平和な社会を推進することにある。

オリンピックはやW杯は世界の窓
岡野俊一郎（IOC名誉委員）



開けられた窓から世界を見る
日本が見られる

世界が直面している人類の課題とは？

・・・環境問題、紛争やテロ、貧困や格差

日本は多様性を受け入れているのか？

・・・外国人・女性・障がい者

子どもたちが当事者として、人類の未来を考える機会

様々な教科で取り組むことのできる生きた教材

オリンピック・パラリンピックのレガシーとは

オリンピック憲章（第1章,第2項）

「オリンピック競技大会のよい遺産（レガシー）を、開催都市ならびに開催国に残すことを推進する
レガシーの5つの分野：スポーツ・社会・環境・都市・経済

ロンドン五輪のレガシー(スポーツ・社会)

スポーツ・健康生活	スポーツ選手への助成強化（13%増） 運動（週1回）する人の増加（140万人以上） 学校スポーツへの1.5億ポンド/年の助成 スポーツ交流（20カ国1500万人の参加）
コミュニティ強化	ボランティア意欲向上、参加者の増加 10万人の新規ボランティア 文化プログラムへの参加 環境への配慮
パラリンピック	障がい者のスポーツ参加向上 パラリンピック支援助成の増加 交通、社会インフラにおけるアクセス性の向上

2020東京オリンピック・パラリンピックのレガシーは？ 未来に何を残すのか？

アジア初IOC委員である嘉納治五郎の思い

大日本体育協会創立趣意書（1911）

国の盛衰は、国民の精神が充実しているか否かによる。
国民の精神の充実度は国民の体力に大きく関係する。
そして、国民の体力は国民一人ひとり及び関係する
機関・団体等が体育に関して、その重要性を認識して
いるかによる。



嘉納が大日本体育協会を設立し、日本が初めて参加した
第5回ストックホルム大会（1912）。嘉納団長以下、
わずか2名の選手であった。あれから凡そ100年の
時が経過したが、嘉納が願った国民の体力・精神は
充実したものとなったのか？

精力善用・自他共栄

**トップアスリートのメダル数を競うことのみならず、
国民の体力・健康の充実を目指し、無形のレガシーを残す**

知

徳

体

求められるのは・・・

知徳体のいずれもバランス良く獲得した人材
様々な局面で考え、実行できる資質・能力